（30周年特集号）

シルバーふじえだ

平成26年8月20日
第51号
発　行
公益社団法人
藤枝市シルバー人材センター
藤枝市藤枝五丁目3番20号
☎054－641－5565
会員数　男 644名・女 362名
計　1,006名（7月20日現在）
印刷　株式会社石垣印刷

設立30周年を契機に、新たなスタート!!
“市民生活を支援する、シルバーの事業活動”

藤枝市シルバー人材センターが設立されて、本年は三十周年記念の年を迎えました。

昭和五十八年に、第一回通常総会を開催した時は、会員数百九十名でしたが、現在の会員数は一千五名となり、センターの事業実績も大きく伸展しています。

会員の皆さんが各地域で、高齢者の生活支援や市内の企業・事業所などで、豊富な知識・経験を活かして活躍しており、多くの皆さんから大変感謝されています。

この三十周年を祝う式典が、六月二十八日に市民会館ホールで開催されました。

当日は、定時総会に引き続いて記念式典が行われ、ご来賓として北村藤枝市長・藪崎市議会議長・佐野県議会議員・落合県議会議員のご臨席をいただき、三十周年のお祝いと共に、会員が熱心に仕事に取り組んでいる日頃の活動に対して、励ましと感謝のお言葉を賜り、「皆さんのお役に立つ仕事が出来て、本当に良かった。」という会員からの声が聞かれました。

そして、この三十年の節目の年を、シルバーの新たなスタートとすることを、会員同士で誓いました。

この式典の後、勇壮な藤枝太鼓の演舞や、抽選会が行われて楽しい式典の一日となりました。

度定時総会

収支決算の承認

挨拶

大きな変化のあった最近の五年間
企画提案を取り入れて事業の推進

理事長　大井　市郎

公益社団法人としては、第三回目の定時総会です。そして今年はシルバー人材センターが設立されて三十周年の年を迎えました。この総会の後、皆様とご一緒に三十年をお祝いする記念式典を行います。

さて、本総会は平成二十五年度の事業と決算の報告などが主な議題でありますが、ここでセンターの最近の事を振り返ってみたいと思います。

藤枝市と岡部町のシルバーの統合・第二次中長期計画の策定・公益社団法人への移行、また、東日本大震災の発生や、国の産業経済の厳しい環境など最近の五年間にはいろいろ大きな変化がありました。

このような状況の中にありましたが、センターの事業は、会員の皆様や役員・職員の方々がいろいろな面に取り組んでいただき、大変なご尽力によりまして就業率や契約高を向上させるなど、成果を上げることができました。

事業面でも新規の企画提案事業を採用し、国や市の援助を得て積極的に事業を推進しております。

この設立三十周年を節目の年として、これから三十五周年・四十周年に向けて、藤枝市のご支援・市内の企業・事業所や、一般のご家庭の皆様のご理解をいただいて、シルバー人材センターをさらに発展させたいと思います。今後ともより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

☆平成二十六年度・定時総会☆

本年度の定時総会は、六月二十八日（土）に市民会館ホールで開催されました。当日は、会員七百五十二名（書面による出席を含む）の皆さんが参加して、提案された議案などすべての事項が可決・承認されました。

また、この総会後、藤枝市シルバー人材センターが設立して三十周年になりますので、お祝いの記念式典も行われました。

平成二十五年度の事業報告と収支決算報告
就業開拓と会員の増員確保

平成二十二年度にスタートした「シルバー人材センターの第二次中長期計画」を基本に、事業に取り組んできました。

二十五年度の事業は国の経済が緩やかに回復しつつあることを反映して、地域の産業経済も徐々に上向き傾向のように感じますが、まだまだ厳しい状況です。

事業の実績は、市などの公共事業は増えていますが、民間の企業や一般家庭からの受注が、少し減少していることなどから、会員への配分金が、前年度と比較して約一千万円（年額の三％）の減となりました。↖

平成26年
事業の報告と

「公益社団法人」になって

平成二十四年度から、「公益社団法人」となり、それまでは「社団法人」として、年二回の通常総会を開催してきましたが、平成二十五年度から年一回（六月開催）の定時総会となり、事業報告と収支決算の承認をいただくことが主な議題となりました。

以前の総会に議題として提案された事業計画・収支予算は、毎年二月の理事会で決定されることになりました。

しかし、就業開拓については、役員・職員が積極的に努め、また、新規の事業として「生活環境改善・にこにこサポート事業」・「健康・生きがいシルバー農業事業」に取り組んで、事業の拡大に努力し、また、シルバー流の健康体操事業や、子供たちの農業体験学習会を開催するなど、多くの高齢者と子供たちの参加によって、シルバー人材センターが地域に貢献する事業を実施することができました。

会員数の増強状況は、毎月「入会説明会」を開催して、会員の増員に努め、技能・技術会員の確保については、各種研修会や入会時の面談などを行ってきました。

平成二十五年度末の会員数は一千八名となりました。

◆本年度の事業計画と収支予算◆
地域社会の〝支え手〟となる事業の推進

シルバー人材センターを取りまく環境は、景気が一昨年の後半から緩やかに回復傾向を持続していると言われていますが、実体経済はまだまだ厳しい状況にあります。

また、少子高齢化社会の中で、六十五歳までの継続雇用制度が施行されたことによって、定年延長や再雇用が増えて、センターの会員に六十歳代前半の新規入会者が少なくなり、民間企業からの事業受注にも減少が見られます。

しかし、一方では高齢化の進む地域社会の〝支え手〟となるセンターの事業には、支援が強く求められています。

今年は、センターが設立三十年の節目の年になりますので、中長期計画に沿って、今まで以上に地域の皆さんから信頼され、社会貢献を目指したいと思います。

特に、本年度は国の適正就業指導強化により、当センターも一般派遣事業に取り組みますので、今までの民間企業との契約を、変更することも予想されます。

また、市の委託事業として、地域の求職者の雇用や新規会員の増強、そして、民間企業や一般家庭などへの就業機会を確保し、事業所や地域の高齢者を支援することを推進します。

平成26年度収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで（単位：円）

一般正味財産増減の部	
特定資産運用益	4,000
受取会費	2,200,000
事業収益	415,000,000
受取補助金等	35,115,000
受取負担金	0
引当金戻入収益	2,120,000
雑収益	102,000
経常収益計	454,541,000

経常費用	
事業費	441,256,000
管理費	12,373,000
経常経費用計	454,629,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△88,000
一般正味財産期首残高	54,224,384
一般正味財産末首残高	54,136,384
正味財産期末財産	54,136,384

◆ 事業の基本方針 ◆

① 会員の増強と就業機会の積極的拡大

民間企業・自営業者・地域の自治会などに、センターの事業内容を周知して、就業の拡大と会員の入会促進を図る。

② 安全就業の徹底と適正就業の推進

会員の作業中の事故防止のために、安全就業は最も基本的なことであり、各種の安全講習会や研修会を行ない、適正な就労、また、就業途上の交通事故を防ぐために安全運転にも努める。

③ 技能会員の増員と技術向上の推進

広範な就労業務の要望がありますので、資格や技術・技能を有する会員の増員・入会に努める。

④ 効率的な組織運営と財産基盤の確立

地域の皆さんや事業所など発注者のニーズ、また会員の声を反映して、時代の変化に対応した柔軟な事業運営・中長期計画に基づいた健全財政の運営を目指す。

⑤ 介護保険事業の推進

高齢社会とともに、居宅介護支援事業や訪問介護などの要望が増えています。

この介護保険事業は、法改正によって内容や時間などが細分化される傾向にありますが、利用者のニーズに沿ったサービスの提供に努める。

⑥ 福祉・家事援助サービス事業の推進

介護の対象になっていない一般家庭からの家事援助が求められますので、サービス内容の資質・技術を向上させることに努めます。

⑦ 普及啓発活動の推進

シルバー人材センターの事業や活動内容を、広く会員や一般市民にPRするための広報「シルバーふじえだ」などを発行します。

⑧ ボランティア活動の推進

会員の活動として、公園の清掃奉仕活動など、住みやすい地域社会づくりに貢献する。

設立30周年記念式典 盛大に挙行

式辞

理事長 大井 市郎

三十周年の節目の年を 更なる発展の礎に

藤枝市シルバー人材センター設立三十周年記念式典を開催するに当たり、ご来賓として北村藤枝市長様をはじめ、藪崎市議会議長様、佐野・落合両県議会議員様をお迎えし、また、会員多数の皆様のご出席のもと、ここに盛大に開催できました事に対し、厚く御礼申し上げます。

高齢社会の急速な進展に積極的に対応するための施策として、新たな発想と理念の下に構成されたシルバー人材センターは、昭和五十年代、全国各地に設立されました。

当センターは、昭和五十八年十二月に任意団体として設立総会を行い、翌年六月社団法人に移行し、ここに満三十年の節目の記念式典を執り行うという事に相成り、改めて祝意を表す次第であります。振り返ってみますと、設立年度の会員数は百五十八名・契約金四千九百万円であったが、平成二十五年度には、会員数一千八人、契約金額四億三百万円を超え、健全な成長を遂げて来ました。

このような業績を残す事が出来たのは、ご理解とご指導を頂いた行政機関のご支援と長年にわたり発注を下さった企業の皆様及びご家庭の皆様方のご協力そして真面目にその業務を遂行した役職員・会員のご協力の賜物であります。

高齢化社会は益々進み、社会に貢献する場はさらに拡大し、当センターの果たす役割も益々重要になります。設立当初からの「自主・自立・共働・共助」の理念を基本として、地域社会に貢献して活力ある高齢社会に貢献して行くことを、改めて会員・役職員が一丸となって取り組んでいく覚悟を誓い合い、本日ご臨席の皆様の更なる当センター事業に対し、ご支援とご協力をお願い申し上げ式辞とさせて頂きます。

祝辞

藤枝市長
北村　正平

今日は、皆様方のお元気なお顔を拝見致しまして、大変嬉しく思います。

藤枝市シルバー人材センターの設立三十周年を迎えるに当たり、心からお祝い申し上げます。又、只今は永年にわたり、この事業の推進に大きく寄与された方々が感謝状や表彰状を受けられました。皆様方には心からお祝いを申し上げると共に感謝を申し上げます。

現在の業績は、受注件数が実に八千件、年間契約額も四億円を超すという大変素晴らしく、着実に実績を残しており、本市における高齢者の能力の活用や福祉の増強などに大きな役割も果たしているという事であります。

藤枝市シルバー人材センターの事業活動につきましては、単に高齢者の就業促進に留まる事無く、今社会の大きな課題となっている耕作放棄地を活用した「健康生きがいシルバー農業事業」あるいは、買い物弱者支援として「生活環境改善にこにこサポート事業」あるいは、蓮華寺池公園の美化など積極的に取り組んで頂いております。シルバー人材センターが、これら地域社会に根差した事業に取り組んでいることに、私は大変大きな期待を持っております。

今、社会の大きな問題として、人口減少があります。本市はお陰様で三年連続微増ではありますが、人口は着実に伸びております。この事は本市が住み易い街として、色々な方から注目されているという事であります。これも皆様方の活動と頑張りが大きく貢献しているものと思います。

皆様方におかれましては、次世代を担う大切な子供たちの健全育成も含めて、ご自身の生きがいづくり、また健康づくりを通して社会に貢献して頂いております。

まさに一人ひとりがお力を色々な形で発揮して頂きまして、色々なことに輝くという事で、地域が活性化され街づくりの理念へと繋がっている事と思っております。

藤枝市といたしましても、このシルバー人材センターに対しては、出来る限りの支援をしてまいりますので、会員の皆様方におかれましては、永年培ってきました技能や知識を最大限に活かして頂き、皆様一丸となって、これからの事業を成功に導いて行って頂きたいと思います。

最後になりますが、藤枝市シルバー人材センターの益々のご発展と会員の皆様方のご健康と更なるご活躍を心から祈念申し上げまして、私のお祝いの挨拶と致します。

祝辞

藤枝市議会議長
藪崎　幸裕

本日は、公益社団法人藤枝市シルバー人材センター設立三十周年記念の式典の開催に当たり、一言市議会を代表してご挨拶申し上げます。

日頃皆様方には、行政並びに議会に対しましては、深いご理解とご協力を賜っていますことをまずもって、この場を借りて御礼申し上げます。

また、表彰を受けられた方々には、シルバー人材センターの発展に永年寄与して頂き、そして今日に至るまでのご尽力に対して深く感謝申し上げます。

シルバー人材センターは発足以来、会員の皆様の豊かな知識や経験、技術を活かして様々な事業を展開され、高齢者の生き甲斐と健康づくりに大きな貢献を果たしているところであります。

また、会員皆様の丁寧で誠実な仕事ぶりについては、地域において高く評価されております。

そして、積極的に地域社会に貢献し、生涯現役を目標に活躍されている事も素晴らしい事であると思っております。

私ども市議会と致しましても、皆様方が活躍できる場を提供出来るように、行政と共に努力していく所存であります。

どうか皆様方には、持っている技量を存分に発揮し、いつまでも市民に信頼されるシルバー人材センターとして事業が推進されますように念願しております。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、挨拶と致します。

シルバーの事業にご理解とご支援
多年にわたるご協力に感謝！

シルバー人材センター設立三十周年記念式典において、長年にわたりシルバーの事業振興に貢献された十五企業の方々に感謝状を贈呈させていただきました。当日は、八社の代表の方々にご出席をいただき、大井理事長から感謝状及び記念品を贈らせていただきました。

また、永年にわたりシルバーの地区長、班長として地域の会員の連絡や、とりまとめ等に活躍された方や、シルバー事業に貢献された方々をも併せて表彰いたしました。

感謝状を贈呈した企業

永年にわたり事業振興に貢献されご協力いただいた企業は左記のとおりです。（敬称略）

鈴木鉄工所㈱
㈱赤堀技研
㈱エイジー
㈱グリーン藤枝
㈱サン
㈱藤枝ゴルフクラブ
㈱ヤマシタコーポレーション
㈱レント静岡管理センター
東海ナッツ㈱
特別養護老人ホーム亀寿の郷
特別養護老人ホームふじトピア
社会福祉法人　富水会
藤枝市社会福祉協議会
松葉倉庫㈱
丸十商事㈱

企業謝辞

真面目な仕事に感謝

鈴木鉄工所 株式会社
代表取締役社長
曽根　寛

藤枝市シルバー人材センターが設立三十周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

高齢化社会が年々進む中で、社会情勢の変化に対応したセンターの役割は益々重要視されています。

近年大手企業の大部分は、為替のリスクを回避し、安い労働賃金を求めて海外に生産拠点を移している中で中小企業を取り巻く経済環境は厳しく、各社とも必死に生き残りをかけた生産活動を模索しています。

私は、高齢化した社会の中で、社会の様々な分野の第一線で活躍し、豊富な知識と経験で培われた有能な人材を活用することこそが生き残りの道だと考えています。

当社では常時四名のシルバー会員が就労していますが、そのまじめに働く姿、また丁寧な仕事は若い社員の見本となっています。

今後とも幅広くセンターの利用推進をして行く所存です。

今回センターの事業振興に貢献した団体として感謝状をいただき、身に余る光栄と感じておりますとともに貴法人の益々の発展と会員の皆様のご活躍を心から祈念申し上げます。

会員謝辞

大好きなシルバー人材センター

葉梨地区
岩井　亮算

この度は、私共五十七名が晴れがましい表彰をしていただき、身に余る光栄であり、代表して厚く御礼申し上げます。シルバー人材センターに入会して十有余年、この間大過なく過させていただきましたことは、ひとえに理事長様をはじめ、職員の皆様方のご指導と、また一緒に汗を流した同僚各位の温かいご支援によるものであります。

この表彰を受けましたのは、とりもなおさず私たちに対する激励の意味でもあろうかと思います。この感謝の気持ちを胸に深く銘じ、大好きなシルバー人材センターのために、今後も力を尽くしたいと思っております。今後とも一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、お礼の言葉といたします。

会員の表彰

地区長・班長・会員として事業推進に貢献された方々が表彰されました。

【地区長】
稲葉2　飯塚　茂司
青島北3　佐野　友信

【班　長】
藤枝東6　小澤　正吉
青島北4　夏賀　外吉
青島北5　阿井　清
青島北6　松井　博
青島北8　成岡久仁治
青島北12　小松原敬三
高洲3　穂積　周作
高洲8　小澤　清二
大洲2　槻　富美雄
大洲6　森　はるえ

【会　員】
《瀬戸谷地区》
向島喜代治　渡邉ミチ江
《葉梨地区》
岩井　亮算　秋山　訓伸
有賀美津江　薮崎　邦夫
《広幡地区》
秋田　賢司　仁科美智江
坂東　祥行
《西益津地区》
南條亀與志　堀江　正夫
石黒三津江　立浪　悦子
《藤枝東地区》
増田　登　松浦　三雄
長田　誠次　小島　満昭
望月　広幸　桒原　順一
《藤枝西地区》
良知　幸藏　髙木　光子
澤本　康逸　瀧本　治朗
坂井　茂二　瀧本　國子
小林　英樹　田山　錦一
《青島南地区》
岩本　孝一　建部　徹
青島　末二　杉山　仁彦
池田　貞子　大塚　三男
森下けい子　曽根　博
《青島北地区》
坪井　清　平口　進
板橋　勝昭　青島　康雄
岸本　孝夫　鷲山　隆
永田　怜
《高洲地区》
寺本　明　杉山　光隆
安井　一年　萩原　東一
江成　秀行　小田　辰男
平松　充子　平出　武男
菅ヶ谷欣也
《大洲地区》
富岡　隆夫　鈴木　武雄
《岡部南地区》
萩原すま子　山口　幸江
《岡部北地区》
澤田　喜恵
西堀　勝

アトラクション

《勇壮な藤枝太鼓の演奏》

記念式典のアトラクションの集いは「藤枝太鼓」の演奏で会場を盛り上げました。

この「藤枝太鼓」は、結成から三十一年、近隣太鼓グループの草分け的存在で「文化の国体」と言われている全国国民文化祭・和太鼓大会には静岡県代表として最多の出場を誇っております。

会員は現在、男女合わせて二十一名（会長・寺田益男氏）で「桜祭り」や「藤まつり」などの市民イベントに加え、地域や学校での太鼓教室活動を通じて、和太鼓の普及振興に取り組んでおります。

演奏は、勇壮に、華麗に、華やかにメンバーの息の合ったバチさばきで「本願力太鼓」など4曲が演奏され、締めの「遊神」というおめでたい曲が終わるまで、しばし時間のたつのを忘れさせました。

会場からアンコールの声も掛かりましたが時間の都合で、会員の要望に応えられなかったことは大変残念でした。

《お楽しみ抽選会》

三十周年記念式典のアトラクションとして抽選会を行いました。

理事長のくじ引きで

1等　三十本
2等　五十本
3等　七十本
4等（全員）

が決まり、参加したすべての会員が景品をいただいて笑顔で帰宅されました。

藤枝市シルバー人材センター

30年のあゆみ

高齢者が生きがいと働く喜びをもって

社会に貢献する自主・自立・共働・共助の事業活動

◆ 昭和五十八年度

七月・藤枝市シルバー人材センター設立準備委員会の発足

十二月・任意団体として〝藤枝市シルバー人材センター〟の設立総会を開催（会員百五十八名・会費五百円）

・事務所を藤枝市役所内に開設

◆ 昭和五十九年度

六月・藤枝市シルバー人材センターを「社団法人」にするための総会を開催し、十二月に社団法人として認可された。

二月・**社団法人・藤枝市シルバー人材センターの第一回通常総会**を開催（会員百九十名）

・**初代理事長に竹田貞一氏**

・理事十三名・監事二名

・事務所を元県税事務所（青木）に移転

三月・植木剪定技能講習会

◆ 昭和六十年度

四月・会費五百円を千円に改正・第一回地区長・班長会を開催

六月・〝シルバーふじえだ〟創刊号を発行する。

十月・会員の就労開拓に、市内の事業所訪問を始める。

十一月・襖・障子張り技能講習会

◆ 昭和六十一年度

四月・地区長・班長の視察研修（富士市シルバーを訪問）

七月・配分金・七月分が、念願の一千万円を超す。

三月・配分金が、当年度額で一億円を突破した。

◆ 昭和六十二年度

七月・会員の西益津地区懇談会

十月・富士市シルバーとゲートボールの交流大会

・会員の手工芸作品展　開催

◆ 昭和六十三年度（平成元年）

四月・事務所を藤枝五丁目（各種団体事務所）に移転

・静岡県シルバー人材センター連合会発足

六月・財政調整基金の設定

二月・**設立五周年の記念式典**

◆ 平成元年度

四月・会員の親睦旅行（香嵐渓）

五月・シルバー人材センターのPRと会員募集のパンフレットを市内の全家庭に配布

・県シルバー人材センター連合会発足

八月・老人介護研修会

三月・ペンキ塗り講習会

◆　平成二年度
四月・地区長・班長の視察研修（清水市シルバーを訪問）
六月・高齢者労働能力活用会議
十一月・会員の親睦旅行（箱根）
三月・地区長・班長の視察研修（相模原市シルバーを訪問）

◆　平成三年度
十一月・藤枝・富士・磐田（三市）のシルバー親善交流ゲートボール大会（富士市）
二月・地区長・班長視察研修（犬山市）
・介護研修会・剪定技能講習会
三月・塗装技能講習会

◆　平成四年度
七月・草刈り機安全使用講習会
八月・蓮華寺池公園の清掃奉仕
十月・会員の親睦旅行（昇仙峡）
二月・地区長・班長視察研修（豊田市シルバーを訪問）
・植木剪定・塗装技能講習会

◆　平成五年度
五月・役員による就業開拓の企業訪問
十一月・会員の親睦旅行（浜名湖めぐり）
十二月・**創立十周年記念式典**
三月・役員・地区長・班長の視察研修（厚木市シルバー訪問）

◆　平成六年度
六月・第二十回通常総会　開催
・役員改選　**竹田理事長から第二代理事長に寺田信次郎氏**
十月・福祉料理教室
・会員の親睦旅行（伊豆・伊東）
十一月・役員視察研修（福井市・松任市）
二月・第二十一回通常総会　開催
・**会員互助会の設立総会**

◆　思い出　◆

会員158名のスタート

最初の仕事は、職場の仕事探し

杉森　忍（元事務局長）

三十周年を迎えた藤枝市シルバー人材センター・誠におめでとうございます。

三十年前に発足した頃、何回も準備委員会を開きながら、設立に向けた協議をくり返した事を、懐かしく思い出します。

このセンターは、高齢者の〝生きがいと健康づくり〟を目的にして、会員の仕事の場・働く場を提供するために、昭和五十八年十二月二十五日・市役所の大会議室で設立総会を開催し、会員は百五十八名のスタートでした。

私は当時五十歳でした。

初代の理事長・竹田貞一様のもとで、センターの運営や事業への取組みなど、毎日が勉強・研修で、最初の仕事は会員の仕事探しでした。

藤枝市SC（シルバー人材センター）は、県下で七番目に誕生しました。

藤枝SCに入会された皆さんは、それぞれの職場で活躍され、第一線を終えて、その経験を活かし少し働きながら、社会貢献をという方々であり、また一方、仕事を依頼する会社など事業所は、SC会員の仕事ぶりに期待され、センターの責任は重く大変でしたが、会員の仕事が信頼され、褒められた時は、本当に嬉しく思いました。

会員が年々増して職場確保も忙しく、役員と職員が事業所を訪問して、センターの事業拡大にも努力しました。

センターが発足して四年目の昭和六十一年度末には、会員への配分金が年額一億円を突破し、当時の竹田理事長や藤枝市の飯塚市長をはじめ、センターの関係者全体が、会員の成果として、皆さんで喜びました。

センターの設立当初から十三年間、事務局長として皆様にお世話になり、大変ご支援いただきました事を、厚くお礼申し上げます。

◆ 平成七年度
六月・家事援助の福祉講演会
九月・役員視察研修（東京都町田市・清瀬市シルバーを訪問）

◆平成八年度
六月・家事援助の福祉講演会
十一月・東海道いきいき祭り、会員多数が大名行列に参加
・会員の親睦旅行（渥美半島・伊良湖）
・会員の交通安全・事故防止のための講習会

◆ 平成九年度
九月・役員視察研修（鈴鹿市）
十月・全国シルバー事業協会の〝設立十五周年記念大会〟において、藤枝市シルバー人材センターが**『特別表彰』**された。
十一月・会員の親睦旅行（沼津市御用邸・大仁洋蘭パーク）
二月・会員互助会の作品展
・介護の講義と技術講習会
三月・地区長・班長視察研修（名古屋市）

◆ 平成十年度
六月・第二十八回通常総会に併せ**設立十五周年記念式典**を開催
十月・会員の視察研修（天竜厚生会）
十一月・東海道いきいき祭り出店参加
十二月・会員の親睦旅行（竜ヶ岩洞・浜松アクトシティ）
三月・地区長・班長視察研修（ケアハウス駿河・特養老人ホーム・晃の里）

◆ 平成十一年度
八月・事業推進計画策定委員会
・シルバーの中長期計画を検討

◆ 思い出 ◆

中長期計画の由来

シルバー人材センターのバックボーンとして

松井　芳朗（前・副理事長）

中長期計画の策定は、平成十三年一月。その頃の思い出といっても十三年余り経った現在では、記憶も定かではなく、誤りがあっても困ると思い、当時の事務局長を訪ねてお話を伺ったり、資料を繙（ひもと）いて思い出の糸を手操（たぐ）ってみた。

昭和五十八年にシルバー人材センターが設立されてから、年度毎に事業を計画して、長期的な計画を立てる事には至らなかった。この頃、全シ連が県シ連を通して、長期的な計画を立てるように指導があった。

当時の東京都は、シルバー人材センターでも先駆者であり、中長期計画を策定していた。この事例（足立区のもの）が県シ連から示され、当センターもこれを参考にして、中長期計画の策定に取り組んだ。

平成十一年八月、事業振興計画策定委員会を発足させ、長期計画づくりの資料集めから始めた。

平成十二年九月、第一回委員会を持った。その後、数回にわたり委員会を開催し、基本計画編四章十四項・事業計画編五章十二項に及ぶ原案が事務局から示され、各項目の計画内容について討議を重ねた。そして、理事会の承認を経た後、平成十三年二月の通常総会において承認された。

この中長期計画は、当センターの歩みの中でも画期的な事業であり〝**シルバー人材センターのバックボーン**〟が確立されたといえよう。

その後、リーマンショックによる経済不況に、センターも試練に見舞われたが、新事業の開拓や効率的な運営と健全財政の確立によって、これを乗り越えてきた。

第一次中長期計画は平成二十二年に終期を迎えたが、益々増加するシルバー世代に対応していくために、新たなる決意を持って平成二十三年、第二次中長期計画が策定され、この指針に沿って、これからの市民生活に役立つセンターの事業が期待される。

九月・役員視察研修（町田市・足立区シルバー）
十月・地区長・班長視察研修（伊東市シルバー）
十一月・会員の親睦旅行（富士国際花園と田貫湖）
二月・リフォームショップ〝藤の華〟オープン

◆　平成十二年度
四月・介護保険制度の施行に伴い居宅介護支援・訪問介護事業の業務を開始
九月・役員視察研修（豊中市・城陽市シルバー）
十月・会員の親睦旅行（修善寺虹の郷）
二月・**中長期計画策定〝二十一世紀の労働力の担い手〟**

◆　平成十三年度
五月・全会員意識調査を実施
十一月・会員の親睦旅行（忍野八海）
十二月・会員の交通安全・事故防止講習会
三月・地区長・班長視察研修（日進市シルバー）

◆　平成十四年度
六月・市から受注による地域雇用創出特別対策事業により就業率の向上に努める。
十一月・会員の親睦旅行（三谷温泉・新居関所跡）
三月・地区長・班長視察研修（裾野市シルバー）

◆　平成十五年度
十月・**設立二十周年記念式典**
・記念誌「二十年のあゆみ」発行
・役員視察研修（長浜市・八幡市シルバー）
十一月・会員の親睦旅行（西伊豆町）

三月・地区長・班長視察研修（函南町シルバー）

◆　平成十六年度
五月・会員の親睦旅行（浜名湖花博）
十月・役員視察研修（坂戸市・上田広域シルバー）
三月・地区長・班長視察研修（岡崎市シルバー）

◆　平成十七年度
十月・役員視察研修（横須賀市・平塚市シルバー）
十一月・会員の親睦旅行（中部国際空港）
三月・地区長・班長視察研修（浜北市シルバー）

◆　平成十八年度
十一月・会員の親睦旅行（西伊豆の旅・駿河湾フェリー）

◆平成十九年度
六月・第四十六通常総会　開催
・役員改選　**寺田理事長から第三代理事長に三ヶ尻　進氏**就任
十月・岡部町シルバーとの統合協議会
十一月・会員の親睦旅行（富士サファリパークと下部温泉）
三月・地区長・班長視察研修（静岡空港・浜岡原発）

◆　平成二十年度
十一月・岡部町シルバーとの統合協議が整い、藤枝・岡部の両センター理事長による**〝統合協定書〟**に調印。
二月・第四十九回通常総会　開催
・役員改選　**三ヶ尻理事長から、第四代理事長に大井市郎氏**
三月・地区長・班長視察研修（掛川市シルバー）

◆ 平成二十一年度

四月・**藤枝市と岡部町のシルバー人材センターが統合して〝新生藤枝市シルバー人材センター〟としてスタート**

六月・第五十回通常総会　開催

・設立二十五周年記念と藤枝市・岡部町のシルバー統合記念式典　開催

十月・役員視察研修（新座市）

十一月・会員の親睦旅行（浜名湖花博と舘山寺温泉）

十二月・第二次中長期計画策定委員会　設置

三月・リフォームショップ〝藤の華〟閉店

◆ 平成二十二年度

四月・新規の企画提案事業として・介護・子育て支援事業に市と連携して取り組む。

九月・**第二次中長期計画を策定**

十一月・会員の親睦旅行（小原四季桜と蒲郡温泉）

三月・地区長・班長視察研修（伊豆シルバー）

◆ 平成二十三年度

六月・第五十四回通常総会　開催

・**本総会において、社団法人から公益社団法人に移行する「定款」変更の議案が承認され・平成二十四年度から公益社団法人・藤枝市シルバー人材センターとなる。**

十月・役員視察研修（佐久市）

十一月・会員の親睦旅行（昇仙峡と石和温泉）

二月・第五十五回通常総会開催（社団法人として最終の総会）

三月・**東日本大震災の発生〝大津波と原発事故〟**

◆ 平成二十四年度

四月・**「公益社団法人」としてスタート**

六月・第一回定時総会　開催（この年度から総会が年一回）

十月・役員視察研修（深谷市）

十一月・会員の親睦旅行（信州・南木曽と妻籠宿）

三月・地区長・班長視察研修（掛川市シルバー）

◆平成二十五年度

六月・第二回定時総会　開催

・新規事業として〝健康・生きがいシルバー農業事業〟と〝生活環境改善・にこにこサポート事業〟に取り組み、耕作放棄地の活用や、買い物弱者の支援など、地域社会に根ざした就業機会の確保拡大に努めた。

十月・役員視察研修（白山市）

十一月・会員の親睦旅行（西伊豆・堂ヶ島）

◆平成二十六年度

六月・第三回定時総会　開催

・**設立三十周年記念式典**

高齢社会を支えるシルバーのマンパワーに期待

事務局長　増田　達郎

藤枝市シルバー人材センターは、設立から三十年が経過し、この間、シルバー人材センターではいち早く介護事業に取り組み、岡部町との統合、また、公益社団法人への移行と健全な発展を遂げてまいりました。

しかし、国・県の「事業仕分け」による補助金の大幅削減や介護制度改革による給付費の減収や、国（労働局）による適正就業に伴う指導強化など、シルバー人材センターを取り巻く環境は大変厳しい状況でありました。その都度、知恵と工夫を駆使して対応をしてまいりました。

我が国は、世界で最も高齢化が進んだ国となり「前例のない高齢化社会」が到来することとなりますが、高齢者は総じて元気で、就労者や社会参加に意欲的であることをかんがみれば、今後の高齢社会を支える貴重なマンパワーとして期待をされています。

このような社会環境に、シルバー人材センターの果たす役割は、大変重要になってまいります。

今後、当センターも既成概念にとらわれることなく、シルバー派遣事業や独自事業など、新しい事業を積極的に取り入れ、多様化する会員の就業志向を踏まえ、お客様のご要望に応えられるように事業展開を図ってまいりたいと考えております。

平成26年度　組織図

（H26.7.10現在）
会員数 1,006名

理事長
大井　市郎

副理事長
岸本　孝夫

常務理事
増田　達郎

理事
大島　靖之
大谷　久子
小柳津茂弘
須永　誠三
原川　　弘
原田　昌宏
増田久美子
松土　浩之
向島陽太郎
森谷　亮治
吉井　利次
戸塚準一郎

監事
大石　雅巳
三宅　　博

専門委員会
事業推進
普及啓発

安全・適正
就業委員会

地区長
班長会

事務局長
増田　達郎

事務局職員
八木　　清　村越　祝広　茂川美代子
村松　正行　望月　孝子　森　　紀子
仲田　益子　小林　睦恵　佐久間　清
伊東　照代　小長井博文　小松　和雄
川村　泰子

	地区長（13名）	班長（83名）	会員
瀬戸谷	麓　俊彦	1班　麓　俊彦　2班　澤口　良夫	16名
稲　葉	飯塚　茂司	1班　原田　昌宏　2班　飯塚　茂司	17名
葉　梨	池野　勝夫	1班　藪崎　邦夫　2班　森下鉛一郎 3班　秋山　初男　4班　田端　正義 5班　小島　節江　6班　岩井　亮算 7班　池野　勝夫　8班　北村　誠治	106名
広　幡	※ ※未定	1班　太田　勝己　2班　堀池　篤志 3班　小沢　　務　4班　八木　元一 5班　藪崎　始也	57名
西益津	西形　貫之	1班　八木　蕎二　2班　増田　恵一 3班　木野　　淳　4班　橋本　幹弘 5班　西形　貫之　6班　佐々木　信	82名
藤枝東	小澤　正吉	1班　小島　満昭　2班　高橋　　茂 3班　由比藤　仁　4班　望月　広幸 5班　勝　　慧　6班　小澤　正吉 7班　深沢　正義	87名
藤枝西	野川　　勲	1班　澤本　康逸　2班　野川　　勲 3班　丸山　明彦　4班　田口　弘道 5班　村田　裕司　6班　八木小次郎 7班　小林　英樹　8班　田中　亮吉 9班　青山　安雄　10班　岡本　邦雄	116名
青島南	岩本　孝一	1班　渡辺　昭也　2班　滝沢　康祐 3班　井上　靖彦　4班　一藤　正義 5班　岩本　孝一　6班　西澤　敏明	78名
青島北	佐野　友信	1班　加藤　昭二　2班　田中　金次 3班　佐野　友信　4班　夏賀　夘吉 5班　永田　昌行　6班　松井　　博 7班　小林　英男　8班　成岡久仁治 9班　鷲山　延子　10班　増田つぎ江 11班　長崎　信行　12班　小松原敬三	165名
高　洲	穂積　周作	1班　紅林　卓夫　2班　鈴木さとみ 3班　穂積　周作　4班　佐次本音吉 5班　岩崎　勝美　6班　千葉　穏志 7班　中津山幸治　8班　小澤　清二 9班　竹内　重則　10班　加藤　志津 11班　岡村　正孝	157名
大　洲	横井　　進	1班　増尾　副男　2班　槻　富美雄 3班　横井　　進　4班　内藤　　廣 5班　碓井　直次　6班　森　はるえ	47名
岡部南	水野　計二	1班　水野　計二　2班　金子　隆男 3班　山口　幸江　4班　長谷川俊次 5班　牛山　　弘	43名
岡部北	鈴木　善勝	1班　池田　　章　2班　平野　利勝 3班　鈴木　善勝	35名

互助会だより

囲碁敵を友として

囲碁部部長　小澤　隆保

当センターが本年度三十周年を迎える中、囲碁部が発足してから十七年の歳月が流れました。平成九年、「囲碁・将棋部」として発足し、其の後平成十七年より現在の「囲碁部」として活動してきました。

部員数は、当時とあまり変わりなく十四～五名在籍しています。定例会は、シルバー事務所の会議室を利用してきましたが、事務所がせまくなり、平成二十四年から市の生涯学習センターを利用しています。

活動内容は、メンバーによる総当り戦。一年間を二期に分け、勝敗を星取表に記録し、勝率七割以上が昇段、昇級することに。囲碁は一対一の勝負事。しかし、ハンディ戦でもあり、有段者が勝つとは限りません。

さまざまなルールや定石があり、いかに効率よく石を打つかが勝負の分かれ道となります。一手の悪手で負けることが多々あり、悔しい思いをしますが、反面相手は心の中でニッコリです。

私達は、せいぜい一局一時間くらいで勝敗を決します。この間は時間も忘れ夢中です。勝負にかかわりながらも和気あいあいです。

何でもそうでしょうが、夢中になれるのが趣味と言えるのではないでしょうか。

囲碁は、「集中力がつく」「想像力がつく」「発想が豊かになる」などと言われ、最近は、学校教育に囲碁、将棋が導入されていると言われています。私たち高齢者にとっても、ヘボ碁はヘボ碁なりに頭を使いますので、脳の活性化やボケ防止に役立つでしょう。

囲碁に興味のある方は定例会にお越しください。また、電話などでのお問い合わせは小澤までお願いします。男女問わず大歓迎です。

〝仕事なしされど囲碁あり
辞めもせず〟

記

開催日時　毎月第二第四水曜日
午後一時から五時
会　場　生涯学習センター二階
会　費　年間　千円
連絡先　小澤　隆保
電　話　六四一－六六九一

カラオケ部

カラオケ部部長　藤村　章

カラオケ部の会員は現在十一名（男四名、女七名）で会費は年間三千円です。練習は、毎月二回（第二、第四日曜日。又は第一、第三日曜日）で、練習場所はシルバー事務所二階会議室。午後一時から三時半までです。

現在のカラオケ部がやっていることは、最近のヒット曲の演歌のカラオケテープを聞いて、よかったら歌詞をコピーして全員に分け、その曲を七回くらいテーププレーヤーにかけて覚える。一か月に二曲くらい選曲して歌う。新曲ばかりではなく一～三年くらいさかのぼって良い曲を探して習っております。また、懐メロも良いと思うし、ポップスも良いものがあれば取り入れてゆくようにしております。また指導者は一人もおりません

ので、本年はアンケートを会員から集め、今後の練習をどうして行くか検討しております。全員が年寄仲間ですので歌うばかりではなく雑談をすることも非常に大切なことと思います。三十分から一時間くらいを雑談の時間としています。色々な話を通じてこれからの残りの人生をどのように過ごしていったらよいか話すことも大事なことだと思われます。

年間のイベントは、納涼祭、忘年会、新年会など三回くらいを予定しています。

いずれも会場は、持ち込み自由で安価な岡出山の「まねきねこ」で、午前十時から午後三時半まで行います。

カラオケ部の歴史をたどれば、平成二十五年度までは名波さんが十八年間ほど部長を務めてくださいました。長期間のご苦労にはただただ感謝せずにはいられません。その名波さんは、残念ながら体調を崩され引退いたしました。そのあとをわたくしが会長を務めさせていただいておりますが私の方針は、全員が役職だと言う考えで、皆で協力して役を分け合ってやって行くと言う事で引き受けました。

シルバー会員の皆様、どうかこのようなカラオケ部にぜひとも入部してほしいと思います。皆様の色々なやり方を聞いてよりよいカラオケ部にしてゆきたいと思っております。

書道部

書道部部長　栗田　健吾

毎月の稽古日に見られる風景として、教室に集まる会員の皆様が一生懸命書き上げた月例の競書を黒板に貼り並べ、製作者の苦心したところや、難しかったところ、上手くいかなかったところなどを話し合います。この時もついぞけなすような言葉は聞こえず紳士的な大人の会話が飛び交い、会員の皆さんのやさしさが伝わってきます。特に初心者にはこの時間が大切で、この時の批評の言葉が大変参考になります。このようにお互いに切磋琢磨し合う時、会員はもっと上手くなりたい、苦手なところは克服したいという意欲が湧き、いつまでもその場にいたいという思いに駆られます。

自分の悪い癖、治りがたいところをそれとなく指摘してもらい、次の稽古の時までに修正してくると言う、この向上心が有れば確実に上達し、数年後の師範位も夢ではなくなるのです。

人間、師範とか教範とかの資格を手に入れると不思議と自分の書く字に自信と自覚が生まれ、丁寧な文字を書くようになるものです。

さぁ、綺麗な字を書きたいと思っている人、書道部に入って師範位をめざしましょう。

書道部は優しい人たちの集まりです。

事務局だより

会員募集

シルバー人材センターでは、設立三十周年を機に更なる発展の為、会員の増強を図っています。

その為に、市内在住の六十歳以上の方で、健康で働く意欲のある方を募集しています。入会を希望する方に毎月1回開催される説明会を実施しています。

【シルバーに入会するには】

この説明会を受けていただく必要があります。

説明会を受けた後に入会するかどうか判断していただいています。

シルバーに興味のある方、入会したいと思われる方は、お気軽に事務局へお問合せ下さい。

お申込みを頂くと、説明会開催のご案内状をお送りします。

【お申込み方法】

- 電　話　（641）5565
- FAX　（641）8816

健康体操出前講座

～いつまでも笑顔で生活するために！～

シルバー人材センターでは、シニアの健康機能維持・向上の為、市内各種の集いに、健康体操の出前講座を会員が開いています。お気軽にご相談下さい。

料金：講師２人１組
１時間 2,140 円
ご相談は、
事務局　641-5565

会員相談日

会員就業率の向上を目指し「就業の斡旋」「就業上の困り事」「その他ご要望」など役職員が相談に応じています。お気軽においで下さい。

◇　◇　◇

開催日　毎月第三火曜日
時　間　午前10時～11時30分
　　午後1時～3時30分
問合せ　（641）5565
　　事務局　村越まで

パソコン講座

一般の方及びシルバー会員

私たちベテランが“やる気”のあなたを応援します。
訪問指導も可能（料金別途）

個別に指導！ゆっくり・やさしく

家庭教師的な個人指導の講座が受講者に好評です。
1講座：2時間×3回→**3,300** 円
（1時間当たり **550** 円）

お問い合わせ：シルバー人材センター　担当：村越まで　TEL：**641-5565**

会員親睦旅行

十一月十五日（土曜日）

＊【行先】は追って決めますが、奮ってご参加下さい。

新理事・新職員紹介

戸塚　準一郎　理事

平成二十六年度　定時総会で補充選任されました。宜しくお願いします。

川村　泰子　臨時職員

今年四月から、就業開拓・会員拡大及び一般事務補助員として、事務局に臨時職員が加わりましたので、宜しくお願いします。

あとがき

本年は藤枝市シルバー人材センターが、設立されて三十周年にあたるため、ページ数を増やして記念号としました。

センターではこの三十年間、公的支援を初め、各分野の皆様のご支援を頂き、発展を遂げてまいりました。特に運営上、活動の根幹となる会員の皆様は、これまで培ってきた知識や技能・経験を生かしてセンターの事業を支えてきました。

これからも将来に向けて、躍進を続けるため全会員で更なる奮闘努力をしようではありませんか。